

平成29年度前期学校生活アンケート考察

○全体的な傾向

- ・昨年度と比べて、下学年が3名増え、上学年が3名減ったので単純に比較することは難しいのですが、「授業は、よくわかる」「家でも、よく勉強している」「本を読むことが好きである」の学力向上のための基礎となる授業・家庭学習・読書の児童の評価は増加しています。
- ・「学校生活は楽しい」、ルールを守った生活をしていることについては、「よくあてはまる」が減少していますが、「進んで、あいさつをしている」が全体的に評価が高まっています。
- ・保護者の評価項目を新しくしたため、前年度との比較はできませんが、特に課題と考えられるのは、子どもたちの学力向上のための個に応じた教育活動、小規模校のメリットを生かした教育活動等、本校に保護者の方が特に期待される場所についての評価が低く、より効果的な活動を行うよう継続的な改善が必要であると考えます。
- ・項目が多くなり、内容の変わったこともあります。保護者のD評価は昨年度に比べると増加傾向にあります。

○成果と課題

- ・児童は全体的に素直で、よく学習し、学習内容もよくわかると感じているようですが、個別に支援を必要とし、学習に苦手意識のある児童が増加傾向にあります。
- ・宿題等、家庭でも学習するという児童の割合が増加していますが、「まったくしない」という児童の割合も昨年度に引き続き増加しています。
- ・「読書貯金」の活動を昨年度より取り入れたこともあり、児童の評価が上昇を続けています。今後も引き続き読書を奨励していきます。
- ・学習指導については、授業改善に継続的に取り組んでいるところですが、児童の「授業がよくわかる」が上昇してはいるものの、学習したことがしっかり身につけていない面も見られます。それに伴い、保護者の方はより一層の個に応じた指導をし、それぞれの困り感に対応することを求めていると考えます。
- ・「安全対策」「事故対応」については、児童の安全確保を最重要に取り組んでいるところですが、スクールバスの運行ミスや学習活動での安全配慮が十分でなかったためのケガの発生等あり、更なる安全配慮・安全保持をする必要があります。
- ・様々なご意見をいただいています。学校だけでは解決するのが難しい課題もあるため、今回は、ご意見をほぼ原文通りお知らせすることにさせていただきました。

○ご意見に対する回答と今後の取り組み

- ・小規模校の最大のメリットは、一人に対する指導者の指導時間が圧倒的に長くとれることです。小学校の1クラスの人数は1年生で最大35名、他の学年では40名です。単純に計算することは適切ではありませんが、45分間の授業で20分間の個別指導をしたとしたら、40人の学級では一人30秒ですが、10人の学級では一人2分になります。40人の学級ではどの子がどこでどうつまづいているか全員のことをその時間内に判断するのはたいへん難しいことですが、10人であれば容易です。つまづきを解消する手だてを素早く判断し提示できるかは、指導者の知識と技量に

よるところです。しかし、習得には個人差がありますので、手だてが正しくても時間がかかることもあります。また、教材教具も各個人が十分に使用する時間があります。人数の多いクラスでは高額な教材は全員が使用できず、演示を見るだけになってしまう場合も多々あります。人数の多いクラスでは表現する場の確保はグループ内の発表になることが多く、指導者が個々の子に指導する時間が少なくなります。本校では、全体の前で表現時間が十分確保でき、担任の直接の助言を受ける機会も圧倒的に多くあります。他のメリットも様々ありますが、紙幅の都合省略させていただきます。

- ・デメリットとしては、多くの人の意見を聞き、話し合うことが難しいことや役割が固定化しやすく、競争する意欲が低下する傾向があることです。また、手をかけすぎること、分からないことを自力解決する力が十分に育たない可能性が出てくるのが考えられます。職員の人数が少ない（大規模校では、学級数に応じて増置教員が配置されるため、専科教員や少人数指導教員を置くことが可能である）ため、専門性を生かした指導や個別の取り出し等の指導が難しいこともあります。それ以外にも多々ありますが、省略させていただきます。
- ・学習した結果については、連絡帳やテストへの朱書き等でお知らせするように心がけていきます。
- ・決められた宿題を行うだけでなく、個々で課題設定をして学習する方法も今後取り入れていくことを検討していきたいと思えます。決められた課題をしっかりと行える力をつけることも重要ですので、段階を踏んで進めていきたいと考えます。
- ・お子さんの学力のことや担任外の教員の指導について気になることがありましたら、担任にまずお問い合わせください。その上で必要でしたら、直接指導教員よりお話をさせていただきます。
- ・平成28年度後期学校生活アンケートの課題として取り上げた「学習や友達関係で困り感のある児童もいます。個に応じた対応を多くしていきます」「今後も授業改善に取り組みます」「具体的な指示・評価をすることで意欲を高めて底上げを図ります」「わかりやすい授業・ユニバーサルデザインの授業を目指しながら、個々の困り感を取り除くために個別の対応を強化して学力向上に努めます」については、特に重要視しているのは教職員研修です。研修による教員の授業力向上が最も直接的に子どもたちに還元される具体的な取り組みです。指導目標の明確化、学習の流れの明確化、指導と評価の一体化等に配慮した授業改善をするようにしています。校内授業研修・夏季教職員研修を通して、これからの教育に必要な内容（「主体的・対話的で深い学び」「言語能力の育成」「理数教育の充実」等について）の研修も進めています。また、特別な支援が必要な児童についての情報交換を毎月職員間で行い、対応を検討しています。具体的な対応として、一人一人の児童に存在感を持たせるための具体的場面を作ったり、つまづきや障害に対して援助したり、努力に対する評価と賞賛を積極的に行うなどしています。また、自らの課題を設定させ、自力で解決する機会を設ける、学習の仕方や態度などを身につけ、自ら学習内容や方法を選択できるよう指導・支援する、様々な体験活動を促し、児童同士や児童と教師がふれあい、満足感が持てるような場をもたせる等しています。更に、個別指導のためのスペースを校内に確保し、必要に応じて1対1での個別指導も行う等しています。成果については、明らかに成果が上がったというものを示し得るだけの結果は得られていませんが、昨年度に比べて落ち着いて学習に取り組める時間が長くなった子も見られます。また、言語活動の充実により表現力を高めた成果や総合的な学習の時間に、探究的・協同的な学習を行うことで主体的に学ぶ力をつけた成果は、もといち祭のまなびタイムでご覧いただけたものと考えます。

- 学習ハンドブックについては、昨年度配布後ご家庭での活用をお願いしたのみにとどまっています。よりよい活用の方法を検討します。
- 全国学力・学習状況調査，県標準学力テスト（ご意見には含まれていませんが……）の客観的な結果については，大規模校と比較して具体的な数値をお知らせすることによって，個を特定しやすくなると考えます。100人の平均と6人の平均を比べると，6人の場合は一人でも点数が低い子がいた場合は，平均を大きく下げてしまうことがよくあります。そういった場合には，平均点等を公表することは当該児童の心理的な負担はたいへん大きなものと考えます。結果でお示した「良好でした」は，平均をこえていて，「課題があります」という表現は，平均に満たなかったと判断していただく等配慮をお願いします。
- 印西漢字マスターについては，子どもたちの主体的な学習意欲を高めるために印西市教育委員会が実施しているものです。本校では全員の児童が参加するようにしていますが，基本的には任意のテストで，個々が進んで家庭で練習に取り組み，チャレンジする形をとっています。合格率の推移を学校で示すことは印西市教育委員会が設定した本来の目的に合致していないと考えます。他の人と比較をするのではなく，個人的に目標を持ってチャレンジするよう励ましていきたいと考えます。なお，印西漢字マスターについては，教員の漢字指導の成果を判断するためのテストとしては活用していません。
- 基本的な生活習慣を身につけるために，学習に必要な道具を家庭にしっかりお知らせする等，保護者の皆さんと協力していきたいと考えます。
- 給食については，子どもたちの様子を見ながら必要があれば要望をしていきます。
- スクールカウンセラーは中学校区に1名配置されています。勤務は基本的に週に1回です。学校を通して依頼をお願いします。相談内容については，お話をくださらなくても取つぎいたします。
- 学校行事やPTA行事に参加する場合のマナーについては呼びかけていきたいと考えます。
- オープンスクールについては，これまで計画していませんでした。ご意見があったことを受け，次年度以降どうするか検討いたします。
- PTA常任委員会の議事録については，もっともなご意見だと考えます。本部役員さんに依頼しました。
- ご意見のあったことについて適宜各種会議で検討していきます。